

ホテル海の中道のマリーナにおける利用状況および利用者の意識

九州共立大学 工学部 学生員 ○井上 隆則
九州共立大学 工学部 正 員 片山 正敏

1. はじめに

都市臨海部水辺空間の利用状況に関する調査の一環として、昨年度（福岡市のマリーナMARINO A）、一昨年度（北九州市の新門司マリーナ）に引き続き、福岡市のホテル海の中道マリーナ・テニスコートにおいて、平成7年7月～8月の間、①属性・居住地②来訪目的・来訪頻度・交通手段③施設の利用状況④施設利用前の意識⑤施設利用後の意識について「アンケート調査」を実施したので、その利用状況および利用者の意識の概要について報告する。

2. ホテル海の中道マリーナ・テニスコートの概要

海の中道マリーナ・テニスコートは、海の中道海浜公園の利用者の宿泊施設である「ホテル海の中道」の付帯施設として整備され、昭和62年にホテルとともに、テニスコート、クラブハウス棟、ボートヤード、修理サービス施設の整備が完了した。昭和62年4月にホテルと付帯施設であるテニスコートがオープンし、引き続き翌年の昭和63年6月にマリーナがオープンし、現在にいたっている。

3. アンケート調査の概要、場所

(1) アンケート調査の概要

アンケート調査の概要を表-1に示す。

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	ホテル海の中道の付帯施設海の中道マリーナ・テニスコートへの来訪者全員
調査期間	平成7年7月～8月の10日間
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
調査項目	大項目（マリーナ30、テニスコート28）・詳細項目（マリーナ50、テニスコート47）
回収数	マリーナ379・テニスコート352
有効回収数（率）	マリーナ356・テニスコート328 (93. 9%) (93. 2%)
全回収率	731(684) 93. 6%

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

(2) アンケート調査の場所

福岡市のホテル海の中道の付帯施設であるマリーナ・テニスコートで行った。（図-1参照）

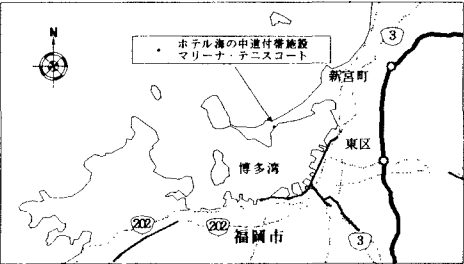


図-1 アンケート調査の場所

4. 来訪者の属性

(1) 来訪者の年齢、性別

マリーナは、約58%が20歳代で、続いて30歳代が約24%を占めており、夏場のマリレジャーの特徴が現れている。テニスコートにおいては、20歳代（約58%）、10歳代（約40%）が多い。これは、調査期間中に近隣大学の学生による大会が行われたためである。（図-2参照）

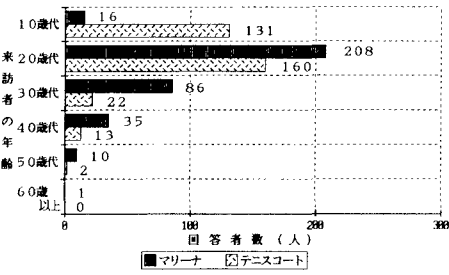


図-2 来訪者の年齢

また、性別では、男性が（マリーナ約51%、テニスコート約52%）女性を上回っている。

(2) 来訪者の職業

マリーナにおいては、約57%が会社員と回答しており専業主婦、学生、自営業と続いている。

テニスコートでは、調査期間中の2日間にコート貸し切りで、大学生によるテニスの大会が開かれたこともあり学生が70%と圧倒的に多い。

5. 来訪者の来訪目的、来訪回数、来訪頻度

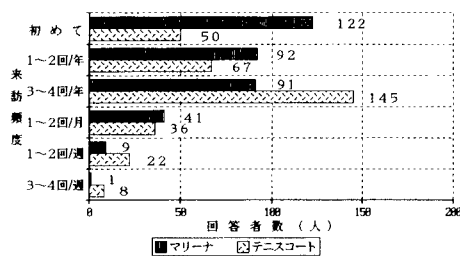
(1) 来訪目的

マリーナでは、クルージング（約43％）やマリンプレイ（約19％）目的の来訪者が多く、テニスコートでは、テニス目的が約88％と圧倒的に多い。

(2) 来訪回数、来訪頻度

来訪回数は、マリーナ・テニスコートともに9回以下が最も多く、来訪頻度はマリーナは初めて、テニスコートは3～4回／年の人が最も多い。

（図－3 参照）



図－3 来訪頻度

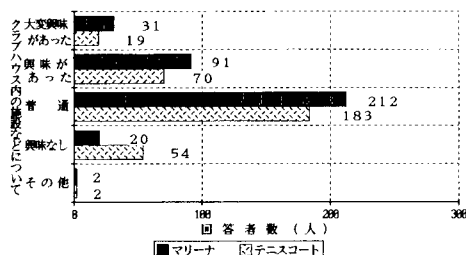
また、現地までの公共交通機関の便がよくないため、約78％が自家用車によっている。

6. 施設利用前の意識

(1) 来訪者の施設利用前の意識

来訪者の施設利用前の意識としては、マリーナでは普通が約60％、ついで興味があつたが約26％と多く、また、テニスコートにおいては約56％が普通、約21％の人が興味があつたと回答している。

（図－4 参照）



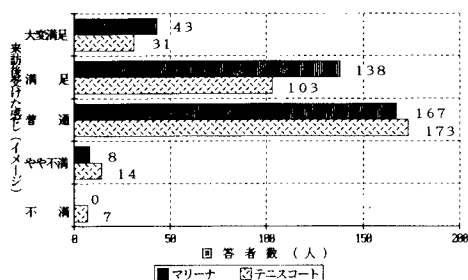
図－4 クラブハウス内の施設などについて

7. 施設利用後の意識

(1) 来訪後受けた感じ（イメージ）

マリーナでは、普通が約47％、満足が約39％と多く、テニスコートにおいては、約13％が普通

で、約31％が満足と回答しており、全体的に満足度は高いと思われる。（図－5 参照）



図－5 来訪後受けた感じ

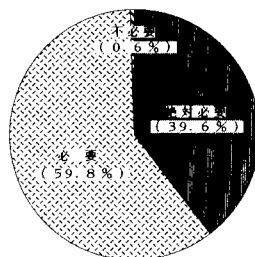
(2) 禁煙コーナーの設置について

現状のままでよいと回答した人が、マリーナ（約58％）・テニスコート（約56％）ともに過半数いたが、禁煙を希望する意見も少なくない。

(3) 公共施設としてのマリーナの必要性

公園などと比較して、公共施設としてのマリーナの必要性について、来訪者の約60％が必要、約40％が絶対必要と回答しており、99％以上の来訪者が、その必要性を感じている。

（図－6 参照）



図－6 公共施設としてのマリーナの必要性

8. おわりに

昨年度（福岡市のマリーナMARINO A）、一昨年度（北九州市新門司マリーナ）に引き続いて、福岡市のホテル海の中道の付帯施設であるマリーナ・テニスコートにおける利用状況および利用者の意識についての「アンケート調査結果」より、この種施設の基本計画のためのデータが得られた。今後、多変量解析による分析などを進めるとともに他場所における調査も進めて比較検討を行いたい。

最後に、今回の調査に御協力・御助言をいただいたホテル海の中道、九州共立大学の関係者に感謝いたします。